

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 6 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	平成 29 年 1 月 26 日 (木) 午後 3 時 30 分～午後 5 時 10 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 5 階 特別会議室
4. 出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、高島信彦委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、米山哲司委員 欠席委員：梅村光久委員、佐藤祐司委員、酒井由美委員、中川昇委員、渡邊幸香委員 事 務 局：竹上市長、小林副市長、山路副市長、加藤経営企画部長、橋爪経営企画部次長、榊原経営企画課長、川上政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人 (内、報道関係 1 社)
7. 担 当	松阪市経営企画部経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-26-4030 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

- ・ 事項、議事概要は別紙のとおり

第6回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 平成 29 年 1 月 26 日（木） 午後 3 時 30 分～午後 5 時 10 分
 2. 場 所 松阪市役所 5 階 特別会議室
 3. 出席者 村林守委員、高島信彦委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、米山哲司委員
- ※欠席者 梅村光久委員、佐藤祐司委員、酒井由美委員、中川昇委員、渡邊幸香委員

〔事務局〕竹上市長、小林副市長、山路副市長、加藤経営企画部長兼市長補佐官、橋爪経営企画部次長兼行政改革特命担当、榊原経営企画部経営企画課長、川上経営企画部経営企画課政策経営係長

1 市長あいさつ

竹上市長あいさつ

お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。早いものでこの会議も 6 回目を迎えた。今は予算査定真っ最中であるが、新しいチャレンジをしようと考えている。特に、松阪駅を中心とした中心市街地 170ha の土地利用計画を策定しようとしている。もともとの発想は、市長就任後に各部局から施設の更新の話があったが、まちづくりの観点で欠落していることに気が付いた。総合的なまちづくりを考える上で、20 年後を見据え、今ある公共用地を含め民間の土地も活用しながら作れないのか、12 月に素案を発表させていただいた。その素案と商工会議所が主催するルネサンス懇話会からの提言の素案を基にご意見をいただきたい。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長) 本日の会議の公開・非公開を決定する必要がありますが、本日は、現在パブリックコメントを行っております「豪商のまち松阪」中心市街地土地利用計画の素案が資料になりますが、すでに公開されていますのでオープンで議論してもいい内容だと思います。

もう一つは、私が座長を務めております松阪商工会議所が主催する「松阪ルネサンス懇話会」において松阪の地方創生について議論してきた内容が資料となります。特別公表していないが、傍聴者には議論途上であることを理解していただければ良いと思いますが、いかがいたしましょうか。

委員) 会長が言われたとおり、すでに公開されている資料に基づき議論されると思いますので、公開でよろしいのではないのでしょうか。

会長) 委員からご発言がありましたが、これからの大きな市政の方向性について議論するわけですが、本日の会議は公開で開催させていただいてよろしいか。

(異議なし)

会長) では、本日は公開で開催します。

2 協議事項

1) 松阪市の将来計画について

会長) では、資料については市長より説明をいただきます。

市長) P6にあるとおり、平成26年2月に「豪商のまち松阪“活き生きプラン”」が策定された。囲みの部分が中心市街地に位置している。この中には公共施設が多く、P15に示したとおり、市役所を中心にたくさんの公共施設がある。また、駅周辺にも公共施設が存在する。P22に示したとおり歴史文化施設も多く存在し、市役所周辺にも数多くの文化財がある。最終的にまとめたものはP35に示したとおり、駅周辺と市役所周辺に分けた。P37のとおり、駅西地区における商業施設の誘致としたが、10年ほど前に駅西地区の再開発計画を断念している。理由は多々あるが、駅周辺の再開発がうまくまとまらず、今日に至っている。百貨店跡地は駐車場、再開発計画を予定していた場所も駐車場となり、市民からは寂しいとの意見をいただいている。地方都市でも公共交通を見直す必要があると考えている。高齢化により免許証の自主返納が進んでいる。自動車に乗れないと不便だから返納できないとの声も聞くが、地方都市だからこそコンパクトシティを目指していく必要があると思う。居住するエリアや都市活用するエリアなどを決めていく必要がある中で、駅は一日1万人が乗降する。そこに複合的な商業施設を誘致していきたい思いがある。ホテルや多目的なコンベンションホールなどを備えた複合施設を駅周辺に誘致していきたい。またカリヨンビルは市民活動の拠点でもあり、産業支援の機能を有した施設としたい。市役所には7つの分館があり、住民サービスの低下につながっていると感じており、サービス向上のため総合窓口化をめざした機能の集約を考えている。市民からも駐車場の不足を指摘されており、空いた場所は駐車場として整備していきたい。観光交流拠点の建設を進めており、旧長谷川邸は31年4月の一般公開に合わせ整備を進めていく。それに向けた人づくりにも力を入れ、松阪の歴史文化の魅力を発信する体制を整えていきたい。新しい試みとして、施設の玉突きをした。松阪公民館の機能をショッピングモールに設け、松阪公民館跡に福祉会館を移転、福祉会館跡は駐車場に整備したいと考えている。総合的な土地利用を考えているが、今までの行政のやり方を見直し、公共施設が民間施設を間借りする方法を検討している。行政も新しい挑戦が必要だと考えている。

2) 松阪市における地方創生について（松阪ルネサンス懇話会からの提言）

会長) 次の事項も関係がありますので、先に説明させていただいて議論をしていただきます。私が松阪ルネサンス懇話会の座長も務めておりますので、資料の説明をさせていただきます。

地方創生と言われる中で、松阪ルネサンス懇話会では仕事づくりの観点からどのように取り組んだらいいのかということを中心に議論している。松阪の地方創生を進める上での仕事づくりを基本に置いている。2年間検討してきて、市に提言する形式でまとめた。本日の資料は素案であり、3月までにブラッシュアップを進めるが、本日は様々なご意見をいただきたいと思う。

松阪といえば「豪商のまち」であり、蒲生氏郷がお城を建て城下町ができ、商人のまちとして発展した。そこには、商人文化を基盤にして、本居宣長を輩出したこのまちの歴史がある。豊かな農山漁村においては松阪牛や松阪茶、商人のまちの発展に大きく寄与した松阪木綿などを利用して商業の花が開いた。豪商のまちを復活させるには、豪商の精神を生かして21世紀型の豪商を育てるまちとして考えてはどうか。

「21世紀型豪商のまち」を実現するために三大プロジェクトを提案している。ビジネススクールの開設、社会的企業ファンドの設立、松阪城跡への陣屋の再建を挙げている。2022年は三井高利生誕400年の節目であり、その節目には三大プロジェクトを何らかの形で取り組めないか。

仕事づくりには何が必要かと考えたとき、観光の推進が挙げられる。もう一つは農林水産業で、農林水産業の新しい展開を、観光やビジネスの新しい展開につなげていく必要がある。

「豪商のまち」とは中心市街地をイメージしがちだが、射和町や中万町、豪商の成功を支えた周辺農山漁村地域も視野に入れての連携が必要である。また、松阪は南三重の玄関口としての役割を果たしていかなければならないことから、同心円状に戦略をたてて取り組むことが有効だと考える。

推進体制の整備も必要であり、官民連携による推進組織を設立し、実務者レベルの幹事会や事務局を併設する必要がある。観光については「日本版DMO」、物産については「地方公社」などの役割を担い、総合的に取り組む核組織として育てていく必要がある。城の再建やビジネススクールの設立など、推進・実行していく体制が必要である。

そのほかに様々な意見が出されているが、参考にして松阪の地方創生を進めていただきたい。

以上で説明を終わるが、市長からの説明も含めて委員からのご意見をいただきたい。

委員) 駅前ビルの大きさはどれくらいを考えているのか。

市長) まだはっきりと決まっていない。資料の37ページを見ていただくとわかるが、境界さえ決まっていない。ある程度の協力は得られると思っている。

委員) 何年先を見据えているのか。

市長) 中期の位置付けであり、10年先を考えている。

委員) 松阪のためを考えるなら、もっと早く着手したほうがいいと思う。

市長) まだ議論が始まったばかりで、すぐには無理だと感じている。協力いただく部分もたくさんある。昔の再開発事業のような莫大な税金投入は考えていない。民間の活力を生かすような事業展開を考えていて、ここへ来ていただける企業を決めていく必要がある、慎重に進めていきたいと考えている。市民の理解も必要で、計画を作っていくのに時間がかかる。

委員) 駅西再開発がとん挫した経過を教えてください。

市長) 福祉や居住スペースなど、再開発組合を結成し進めようとしたが、施設計画の材料費が高騰したためとん挫したと聞いている。

委員) 今の駐車場を駅ビルにして、屋上を駐車場にしたらどうか。駐車場と施設が離れるのはよくないと思う。

委員) 魅力があれば人は集まる。その時には駐車場が必要で、駐車場と施設が離れると不便である。

委員) 津駅周辺は使いやすく飲食店も流行っている。周辺の飲食店も流行っている。手本とすればどうか。良い企画だと思う。

市長) 津駅周辺の開発で、まち自体が移動した。効果があると思う。

委員) まず市民の意見を聞くことが大前提である。市にはそういうスタンスを取ってほしい。総合的なレイアウトが必要である。同じ轍を踏まないように市民の意見を聞いてほしい。提案型も必要だが、アイデアを2~3つ設け、市民に選んでもらうのはどうか。選択肢があればもめることはないと思う。

市長) アンケート結果から、市の玄関口として駅前が寂しいと感じている市民は多い。昔の計画のように莫大な税金を投入することは、市民に受け入れられないと思うので民間の活力が必要である。当時は唐突に計画が出され、福祉施設が駅前にある必要性に疑問符が付いた。

委員) 市長の考えには賛成する。前の駅西再開発がとん挫したのはピンポイントな計画であつたし、説明不足であつたと思う。今回は、総合的にレイアウトがされていて、松阪市が何をめざすのか周知していくと市民も納得しやすいと思う。

委員) どんな施設をイメージしているのか。津駅を参考とするのか。それとも、人口減少に対応していくために、コンパクトシティをめざして機能が集約されるのか。

市長) 近くでは津市を参考にイメージしている。車社会ではなくなり、電車が交通の拠点になると考えている。コンビニ交付が始まり、証明書の発行はコンビニでできるようになると、役所機能はどこまで必要になるのか。それを考えると役所は小さくていいのではないかと。一部の機能を駅周辺に持っていきたい。役所機能の考え方を見直す必要がある。

委員) 2100年には、日本の人口は5,000万人になると言われている。松阪市は70,000人ぐらいになるのではないかと、コンパクトシティをめざし、すべての施設が駅周辺に集まれば、役所を駅前に移転してもいいのではないかと。近い将来、市役所の機能はインターネットを通じてアプリでできるようになるのではないかと。

委員) 駅前の土地は私有地も入っているのか。

市長) 理解が得られる範囲でイメージしている。

委員) カリヨンプラザへは、今も貸しホールの問い合わせが多い。駅前にコンベンションホールができれば利用価値は高いと思う。近鉄とJRの2つの駅があるのは魅力である。

委員) 津市は会議や講演会がよく開催されていて、公共交通機関のある駅周辺での開催が多い。駅前の利用は便利で、飲食店も駅周辺がにぎわう。

委員) 全国的に見て、駅前が開発されていないまちは珍しい。

委員) 官民のどちらが主体となるのか。

市長) 基本的には問い合わせが必要だと思っている。市の計画に応じていただける事業所を探していきたい。都会では、税金を使わずに役所が建てられる。地方都市では難しいことだが、負担を減らせると考えている。

委員) 人口減少が進む中でどうすればいいのかを考える必要がある。産業があつて雇用が生まれないと人は集まらない。箱モノが先行しても、産業を強くしていかないと人口は増えないと思う。

委員) 観光面を考えると、駅があれば成功すると思う。

委員) 豪商のまちとして、観光も含めた産業はベストシナリオだと思う。

市長) 市民からは、観光に力を入れていることがいいのかとの声もある。行政としては、交流人口を増やそうとしている。人が増えなければ消費が生まれない。今まで地元が消費してきた部分を、観光客に来てもらって消費してもらおうと思っている。

委員) 松阪・多気・明和・大台の連合体で観光パンフを作ったが、そんなことを今までやってこなかった。少し進んだように感じる。伊勢観光の入り口になると思う。

委員) 今回の計画はこれだけなのか、絵に描いた餅にならないかと感じている。観光政策はどうしていくのか、リーズナブルに食べられる松阪肉など、突っ込んだプランニングも必要だと感じている。また、駅前の複合施設に対するホテル業界からの意見はないのか。駅周辺にはホテルも多いので、どうなるのかと感じる。

委員) 子どもを連れてくる家族は3人で宿泊する。松阪には3人で泊まれるホテルはなかなかない。駅ビルと直結したホテルが必要で、松阪に泊まって伊勢に観光してもらえ。これだけの場所であれば、手を挙げるホテル業界もあるのではないかと。また、コンベンションホールよりもコンサートホールがあると人は集まるのではないかと。コンサートホールを兼ねたコンベンションホールがあればと思う。中途半端な事業所ではなく、一流の事業所が入れば人は集まる。

委員) 観光資源はたくさんあるが、あまり知られていない。ほったらかしにせず、もっと磨かないといけない。また、プロモーションをしっかりとしないと人は来ない。若い子が使っている情報ツールはLINEである。LINEのコンテンツにこのエリアの観光資源を持ち込むことがプロモーションになる。もちろん外国語対応は必須である。

委員) 岡山デニムのように、駅前にここでしか手に入らないものがあれば人は集まる。

市長) 結論として、青森市はコンパクトシティの発祥地であるが、象徴的な複合ビルがあったが、第三セクターで造ったが昨年倒産した。なぜそうなったのか、役人は商売に向いていない。民と官を分けておかないとダメで、その時は良くて長続きしない。今までのような組合方式は考えていない。あくまでも民間活力を生かしていくことを基本コンセプトとしたい。

委員) 土地利用計画で示されている将来像は、歩いて楽しむことを意識しているのがとても良い。そこで、駅西の開発を考えると、歩行空間とどうつなげていくのが重要で、駅を出て商店街を歩いて、お城などへ行く導線を意識して考える必要がある。また、

車での駅前へのアクセスが悪いので、これも考える必要がある。そういったことを含めて駅西の計画を考えていただけたらと思う。

委員) 駅へ来るアクセスは、駅前、日野町、新町を含めてひとつの通り名を付けて、統一性のあるアクセスにしてもらえれば、他所から来ていただいた方が分かりやすくなる。統一性のあるサインを持たせると分かりやすくなる。

市長) インフラの整備では、アンダーパスが完成したのは影響が大きい。インターから大型バスで中心市街地に入る場合、松坂城跡周辺の道が狭いので国道 42 号からアンダーパスを通ったほうが入りやすい。

委員) 松阪市は歩いて観光するにはいいまちだと思う。城下町らしい観光をつくってほしい。

会長) まだまだ意見はありそうですが、時間がきましたのでこれもちまして第 6 回松阪市政推進会議を終了します。ありがとうございました。

《午後 5 時 10 分 終了》